

献呈の辞

政経学部長 岩元 浩一

国士舘大学政経学部附属政治研究所は2010年に創設されましたが、それに併せて機関誌『政治研究』が発刊されました。以来、歴史は比較的新しいものの、諸先輩方の努力と研鑽により、『政治研究』は政治行政学科の教員を中心とした研究発表の場として、着実に成果を積み上げてきた学術雑誌となっています。

今回ご退職される菅原安彦先生とベバリ・ヘニング先生は、政治行政学科におきまして長きに渡り活躍されてきました。そして御二人とも英語がご専門であるため、外国語部門での活動の方が多かったことと思います。

菅原先生が主に担当された科目は、「文献講読」、「マルチメディア英語」、「英語スキルアップ」、「基礎ゼミ」でした。これらの科目は、1年生ないし2年生が受講しており、大学に入学したばかりの新入生にとって英語は苦手意識の強い科目といえます。先生はその点を十分に踏まえた上で、できてもできなくても常に優しく粘り強く、丁寧に指導されてきました。学生からは、「先生はソフトな口調で、繰り返し同じ箇所を教えて下さった」という話も聞いたことがあります。同じところを何度も説明することは、骨が折れることですが、私自身、今の学生には忍耐強く対応することが必要だということも学びました。

先生とは、お会いすればジョークを言い合い、お互いの近況を話す、よき先輩であり、また慌ただしい日々の中で、心休まる時間を過ごすことのできる数少ない同僚でした。語学の専門家として研究

教育に勤しむ一方、温厚で物事を冷静に分析される先生には、様々な場面で救っていただいたことが思い出されます。

ヘニング先生は、ご専門が「言語学」、「英語教授法」であり、主にご担当された科目は、「英会話」、「基礎ゼミ」でした。傍から見ても、学生達に英語に親しみ、楽しく学んでもらいたい、という雰囲気が伝わる授業に見えました。高校まで英語があまり得意でなかった学生が、少しでも英語に積極的に取り組むようになった、英語が好きになったとすれば、それは先生の教授法によるところが大きいと言えます。ハロウィンやクリスマス・シーズンには、それに合わせた服装や飾りつけをして、学生たちだけでなく、私達教職員も和やかに過ごせるよう工夫されていたお姿が、思い起こされます。学内の日々の業務に追われる自分に、心の余裕を持つことを教えられた瞬間でした。

政経学部の「英語教育」に多大な貢献をされてこられた先生が、一度に御二人もご退職されることは痛恨の極みではありますが、その思いを受け継いでいくことが残された私達の使命と心に刻んでいきます。

最後に、菅原安彦先生とベバリ・ヘニング先生の益々のご健勝と更なるご活躍を祈念いたしまして、『政治研究』を献呈させていただきます。



菅原 安彦 教授

菅原 安彦 教授 略歴と業績

◆学 歴

- 1976年3月 法政大学文学部英文学科卒業
1983年9月 英国イースト・アングリア大学大学院応用言語学英語教授法修士課程修了
外国語教育応用言語学修士（MA）
2000年12月 英国イースト・アングリア大学大学院応用言語学英語教授法修士課程修了
外国語教育応用言語学修士（MPhil）

◆職 歴

- 1976年9月 エンサイクロペディア・ブリタニカ（のち日本ブリタニカ）入社
1984年4月 日米会話学院非常勤講師
1985年4月 国土舘大学、法政大学などで非常勤講師
1988年4月 国土舘大学教養部 専任講師
1992年4月 国土舘大学教養部 助教授
1999年4月 国土舘大学政経学部一部政治学科 教授
2003年4月 国土舘大学政経学部政治学科 教授
2016年4月 国土舘大学政経学部政治行政学科 教授

◆主要業績

1. 著 書

- （共著）『複合メディア英語教育論』リーベル出版（1997年）
（共著）『映画を利用した異文化理解の教材開発』スクリーンプレイ出版（1995年）
（共著）『リスニング カプセル』三修社（1995年）

2. 論文

「リスニングにおける難しさを乗り越えるために——アンケートからみた英語学習者の問題への対処法」, 国士舘大学『教養論集』第 86 号 (2023 年 2 月), 43-69 頁

「リスニングにおける難しさを引き起こす要因は何か——アンケートからみた英語学習者の問題の捉え方」, 国士舘大学『教養論集』第 85 号 (2022 年 2 月), 65-92 頁

「長期留学者の減少傾向と留学志望者の動向——過去 18 年間の神奈川大学英文科学生の留学希望の変化を中心に」, 神奈川大学『言語研究』第 41 号 (2019 年 3 月), 63-82 頁

「テクノロジーと英語教育——教えない英語教育を目指して」, 国士舘大学『教養論集』第 80 号 (2017 年 1 月), 1-16 頁

(共著)「オンライン・ディスカッションを通じた学生間のインタラクションと英語の変化」, 東海大学『教育開発センター紀要』第 1 号 (2016 年 1 月), 27-41 頁

(共著)「TED を利用したディスカッション・ボードの構築と実践——他大学との交流を中心に」, 『群馬高専レビュー』第 35 号 (2017 年 3 月), 39-45 頁

「単語はどうやって覚える?——ポキャブラリー学習法における学習者間の相違」, 国士舘大学『外国語外国文化研究』第 23 号 (2013 年 3 月), 49-68 頁

「なぜ人間は食べ続けるのか?——嗜好と健康」, 国士舘大学『政治研究』第 3 号 (2011 年 3 月), 51-69 頁

「イギリス料理はいかに発展したか?」, 国士舘大学『教養論集』第 58 号 (2005 年 11 月), 13-34 頁

“Teaching Listening Comprehension for Japanese University Students,” University of East Anglia (2000)

“Dictation and Listening Comprehension: Does Dictation Promote Listening Comprehension?” 語学ラボラトリー学会 Language Laboratory, 36 (1999), pp.33-50

- 「新たな学習法を求めて」, 国士館大学『外国語外国文化研究』第9号(1999年3月), 1-21頁
- 「マルチメディアと高等教育——「情報活用能力」をいかに養成するか」, 国士館大学『教養論集』第47号(1998年12月), 43-59頁
- 「コンピュータと道具」, 国士館大学『教養論集』第46号(1998年3月), 91-106頁
- 「語学教育のマルチメディア化への提言」, 国士館大学『教養論集』第45号(1997年12月), 1-17頁
- 「理解」ということについて」, 国士館大学『外国語外国文化研究』第7号(1997年3月), 15-35頁
- “An Introduction to Teaching Listening II-A Practical Review of Classroom Activities,” 国士館大学『教養論集』第34号(1992年3月), 59-73頁
- “An Introduction to Teaching Listening: Aren't We Bullying Our Students?” 国士館大学『教養論集』第33号(1991年11月), 65-84頁
- 「大学における英語教育——その目的と方法」, 国士館大学『教養教育』第3号(1990年11月), 35-47頁
- 「さらに効果的な学習を引き出すために—— Communicative Approach, その本質と応用」, 国士館大学『教養教育』第2号(1989年11月), 35-47頁
- (共著) “A Study of the Measurement of EFL Writing: Can We Specify an Analytic Scoring Item Which Shows High Correlation with Impressionistic Scoring?” 大学英語教育学会『紀要』第20号(1989年9月), 17-36頁
- 「Language Laboratory」を再生する方法——聞き取り能力のための利用法」, 英米文学語学研究会『英米文学語学研究会論集』第2号(1988年3月)
- 「英語学習者のリスニングへの対処法——問題認識から学習への発達過程」, 国士館大学『教養論集』第87号(2024年2月), 71-100頁

3. その他

「SNSを使用したディスカッションボードの構築——「教えない英語教育」を

目指して」, 教育改革 ICT 戦力大会 (2014 年 9 月 5 日)

「オンライン・ディスカッションにおける発話の生成過程の分析」, 外国語教育
メディア学会第 55 回全国研究大会 (2015 年 8 月 6 日)

「TED を利用した英語によるオンラインディスカッション交流——学生アンケートの分析」, 第 23 回大学教育研究フォーラム (2017 年 3 月 20 日)

「嗜好の行く先」, 第 82 回英米文学語学研究会 (2021 年 12 月 12 日)

◆所属学会

日本大学英語教師学会 (JACET)

外国語教育メディア会 (LET)

英米文学語学研究会

法政大学英文学会



ベバリ・ヘニング 教授

ベバリ・ヘニング 教授 略歴と業績

◆学 歴

- 1976年6月 ミシガン州立大学文学部仏語学科卒業 フランス語専攻
1983年12月 ピッツバーグ大学大学院修士課程修了
教育学修士 (M.A. in Ed. Area of Concentration Linguistics)
英語教授法課程修了 資格取得 (Certificate to Teach English as a
Second Language)

◆職 歴

- 1979年－1981年 U.S. Peace Corps としてセネガルに駐在
1983年－1985年 中部女子短期大学 専任講師
1986年－1988年 岐阜大学 非常勤講師
1987年－1990年 Longman Asia Limited 出版審査委員
1988年－1989年 市邨学園短期大学英語科 専任講師
1989年－1992年 市邨学園短期大学英語科 助教授
1992年－1996年 国土館大学教養部 助教授
1993年－1998年 昭和女子大学 非常勤講師
1996年－2002年 国土館大学政経学部一部政治学科 助教授
2002年－2003年 国土館大学政経学部一部政治学科 教授
2003年－2016年 国土館大学政経学部政治学科 教授
2016年－現在 国土館大学政経学部政治行政学科 教授

◆主要業績

1. 著 書

(共) *Impact Words and Phrases* (Longman Asia Limited, 1996)

(共) *Let's Speak* (Longman Asia Limited, 1995)

(共) *Speak Up: Conversation for Cross-Cultural Communication* (Longman Asia Limited, 1994)

2. 論文

“Teaching Culture: Components of an Effective Classroom”『国士舘大学 外国語外国文化研究』第 11 号 (国士舘大学外国語外国文化研究会, 2001)

“A Recipe for Teaching Culture” (Longman Asia Limited, 1997)

“Hollywood and the EFL Culture Classroom”『国士舘大学 外国語外国文化研究』第 4 号 (国士舘大学外国語外国文化研究会, 1994)

“Teaching Culture: A Method that Works”『国士舘大学 教養論集』第 39 号 (国士舘大學教養學會, 1994)

“A Trek through Motion-Picture Video: Using Motion-Picture Film in the EFL Culture Classroom”『人文科学論集』第 47 号 (市邨学園大学・短期大学人文科学研究会, 1991)

“The Teaching of the Cultural Component in EFL Programs at Colleges and Universities in Japan Today: Yet Further Defining the Needs”『人文科学論集』号 46 号 (市邨学園大学・短期大学人文科学研究会, 1990)

“The Teaching of the Cultural Component in EFL Programs at Colleges and Universities in Japan Today: A Comprehensive Review of Literary Texts, Reading Texts, Conversation Texts, and Videotaped Materials”『人文科学論集』第 44 号 (市邨学園大学・短期大学人文科学研究会, 1989)

“The Present Status of American Culture in English Courses at the College and University Level in Japan: A Survey”『人文科学論集』第 43 号 (市邨学園大学・短期大学人文科学研究会, 1989)

◆所属学会

JALT

TESOL

◆教育・研究上のその他の特筆すべき貢献

- 1997年4月-1999年3月： 国士館高校定時制課程（夜間）の英語授業で教鞭をとる
- 1999年4月-2000年3月および 2010年4月-2011年3月： ピッツバーグ大学にて在外研究期間を過ごす
- 2002年-現在： 国士館大学 地域連携・社会貢献推進センター（前・生涯学習センター）公開講座講師 初級，初中級，上級英会話クラス担当
- 2011年-2023年10月： 世田谷・梅ヶ丘キャンパスにおけるハロウィーン仮装・Trick or Treat イベント主催（「英会話2」「英会話4」の授業の一環）国士館職員の方々のご協力とご厚意により続けることができました
- 2012年3月，2013年3月：国士館大学生のためのアメリカン・フットボール強化・文化プログラム企画・運営 於 ペンシルバニア州ピッツバーグ大学 国士館大学アメリカン・フットボール部所属の学生およびコーチが英語とアメリカ文化，アメリカン・フットボールの技術を学ぶ10日間プログラムを企画・運営 ピッツバーグ大学の E.L.I. (English Language Institute) と協力し，本プログラム開発を行った
- 2020年，2023年：キャンパスでイルミネーションを行う「国士館に光を」プロジェクト (Lighting Kokushikan Project) 企画：同プロジェクトは理工学部への支援を受け，2024年冬から導入される予定である